

オオタバコガ情報第1号（ダイズ・キャベツ・キク）

平成28年8月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生生態

本虫は1粒ずつ葉裏等に産卵するので、若齢を含む幼虫期に集団で食害することはありません。若齢幼虫期には展開中の新葉や花のつぼみに潜り込むことが多く、中齢幼虫期以降はさやや果実の内部、茎の中や結球の内部へ移動します。幼虫は5齢または6齢を経過し、終齢幼虫は土に浅く潜って蛹になります。

産卵から羽化までの期間は、20℃で約63日、25℃で約36日、30℃で約25日です。露地では年に3～4世代、施設では作物によっては6～7世代を繰り返すと考えられます。

本虫の寄主範囲は極めて広く、ダイズ、キャベツ、キク以外にもトマト、ナス、キュウリ、イチゴ、ブロッコリー、レタス、オクラ、スイカ、エンドウなどの野菜類、バラ、カーネーション、宿根カスミソウ、トルコギキョウ、ホオズキなどの花卉類で被害が記録されています。作物への被害は、7～10月に最も多くなります。

2 発生状況

フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺数（7月第5半旬まで）は、豊橋市のキャベツ栽培地域と豊川市のキクほ場では平年より多く、西三河地域のダイズほ場では過去3年の平均と同等か少なく、稲沢市のキクほ場では平年より少なく推移しています（図）。

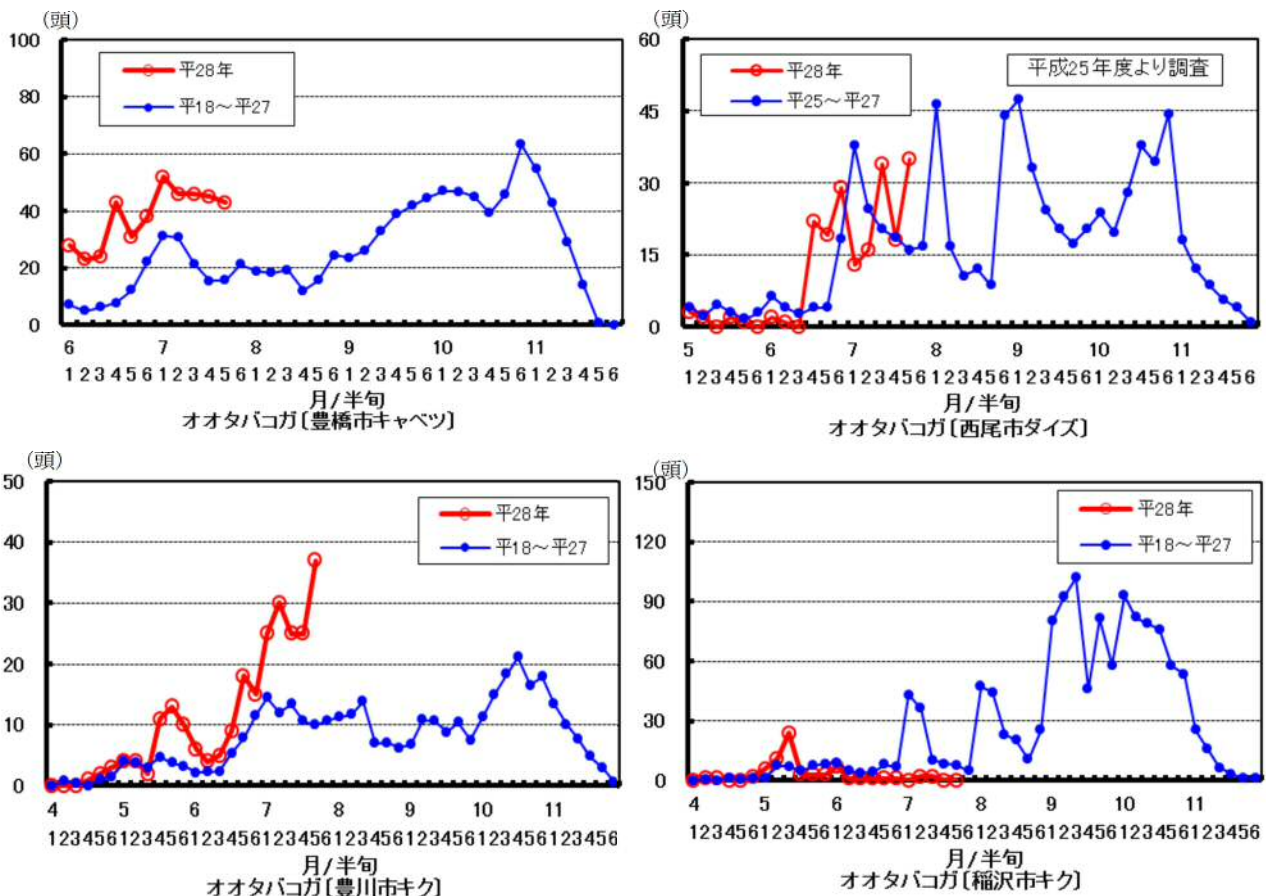


図 フェロモントラップにおけるオオタバコガの誘殺状況

3 今後の予測と対策

7月28日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本虫の増殖に適する天候が続くことが予想されるため、8月以降、発生量が急増する可能性があります。

ダイズにおける本虫による被害は、卵が卵塊でないために幼虫が集団で葉を食害することがなく、白変葉にはなりません。従って、ほ場外からの観察で発生を確認することは困難です。また、直接さやを加害することから、被害が大きくなりやすい傾向があります。

キャベツでは、栽培初期の被害は他のチョウ目害虫による被害と違いはありませんが、結球内部に食入する性質があるため、結球を開始する前までに防除を徹底することが重要です。

キクでは着蕾後に加害を受けると商品価値が著しく低下するため、着蕾以降は特に注意しましょう。

ほ場での発生動向に注意して、表を参考に、発生を確認したら防除しましょう。

表 オオタバコガに対する主な防除薬剤

作物名	農薬名	使用時期	使用回数
ダイズ	アタブロン乳剤	収穫14日前まで	2回以内
豆類 (種実)	チューンアップ顆粒水和剤	発生初期但し、収穫前日まで	—
	サブリーナフロアブル	発生初期 収穫前日まで	—
キャベツ	プリンスフロアブル	収穫14日前まで	2回以内
	ファルコンフロアブル	収穫7日前まで	2回以内
	アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内
野菜類 (はくさい、えごま (葉) を除く)	サブリーナフロアブル	発生初期 収穫前日まで	—
キク	コテツフロアブル	発生初期	2回以内
花き類・観葉植物	アフーム乳剤	発生初期	5回以内

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。